

そのときは突然やってくる

女性の視点の防災ノート

突然、大きな自然災害に見舞われたら、高齢女性の一人暮らしの方は？ 青森在住の外国の方は？ どう対応したらよいのでしょうか。また、避難先の生活は何が問題となるのでしょうか。今回は新潟の震災から学ぶコーナー、青森市の自然災害の歴史やお役立ちグッズの紹介、そして、市民活動企画展で開催した防災に関するワークショップの結果を含め、災害時にこそほしい男女共同参画の視点をアンジュールは提言します。

災害弱者に取り残されませんか？ —災害弱者

災害弱者といわれる方々がいます。平成3年版「防災白書」の定義からまとめてみると、自分の身に危険が迫ったとき、情報の入手能力や発信能力に欠ける方や情報を入手しても行動に移すことが困難な方と考えられます。

■高年齢者、特に高齢の女性へ
阪神・淡路大震災の被害状況からみると、高齢者、特に高齢の女性の死亡率が高くなっています。体力の低下した高齢の方が自力で避難することが困難であったと考えられます。老朽化した家屋も原因のひとつです。防災の面からも高齢者の一人

暮らし世帯の把握と住環境の改善が必要ではないでしょうか。避難誘導には地域の力が、そして経済的負担の大きい住環境の改善には公的援助が必要かもしれません。

■急増する外国の方へ
青森市に居住する外国の方が増えています。言葉が通じないことで、突然の災害から身を守るための情報入手がより困難になると考えられます。

防災パンフレットの翻訳版の配布やFM放送等を利用しての避難誘導など、民間と行政の協働を推し進めていくことも必要ではないでしょうか。

苦しいときこそほしいやさしい視点 —男女共同参画

突然の災害から難を逃れ、避難生活が始まったときにも、女性を取り巻く社会的性差がさまざまな問題を引き起こします。後述の大島煦美子さんが提言されるように、女性にとっては日常の『性役割』が重く圧しかかっています。

■働く場の理解と地域の協働
働く女性が大きな災害により職を失う例は少なくありません。家族間で協力体制ができれば一番よいのでしょうか。でも、シングルマザー・ファミリーが早期

に仕事に復帰するのは難しいと考えます。働く場の理解が必要となってきます。災害休暇や短時間正社員制度導入などが求められています。また、避難所などで住民の協働による保育や介護のサービスをすることも可能ではないでしょうか。

■相談に男女共同参画の視点を
男女を問わず、自分のつらさを語れる場としても男女共同参画の視点が入った相談窓口の早期開設が望まれます。心の元氣は生活再建への一歩でしょう。

視点

大島 煦美子
(財)新潟県女性財団理事長
災害時の
男女共同参画

2004年10月23日午後5時56分、突然、新潟県中越地方は震度7の激震に襲われ、震源地からは離れた新潟市に住む私は被害はななくとも職場関係者や親戚、友人、知人の安否確認ができるまでの

2、3日は眠れぬ夜が続いたのでした。これからの防災と災害復興のありかたなど行政を中心に検証されてきています。

しかし「災害時における女性」に視点をあて、被災した女性たちのおかれた立場をお聞きしますと、解決しなければならぬ多くの問題点が浮かび上がってくるのです。新潟県中越大震災で見えた、特に女性のおかれた現実と、非常時における人権のあり方をほんの1、2例ですがお話ししてみたいと思います。

避難所では、夫はあたりまえのように職場へすぐに復帰し、余震が続く恐怖の中、家族の世話や避難所での食事当番や雑事はあたりまえのように女性に課せられ辛かった。パートも辞めざるをえない状態になった。(主婦の話より)

男女の管理職の立場では、男性の職場復帰は早かったが女性には本人の意思にかかわらず、家族からも避難所などの周囲からも良い嫁・母・妻の立場を先ず求められたため職場のことは後回しにせざるをえなかった。

男性社員から女性管理職は無責任と非難する声があり、その女性管理職がいきれず降

格人事にせざるをえなかったことが残念で悔しい。(女性副社長の話より)

おすすめします！家族防災会議

- 避難場所・道路の確認
青森市は小学校区別に指定避難所があります。避難所と道順を確認しておきましょう
- 家族の役割分担を決めておこう
災害時の役割分担を話し合います。学校や幼稚園などにいる子どもの引き取り役も忘れずに
- 災害伝言ダイヤル「171」
家族間、親類、友人の安否確認に使えます

ワークショップ「グラッときたら」から1/28開催 知っていましたか 自主防災組織



災害時においては「自助・共助・公助」といわれています。自助は、非常時に自分たちの身を守る備えです。

一方、共助は自主防災組織のように地域のことは地域で守ろうという取り組みです。災害時の自主防災組織の役割は、地域の情報連絡、避難・誘導、火時の初期消火、救出・救援、給食・給水と多岐にわたります。自主防災活動に対する支援制度もあります。

青森市総務課危機管理室中村敦さんは「行政が行う公助は青森市地域防災計画に細かく掲げられているが、近年の大地震でも活動範囲が広いため思うようにいかなかった例がある。自主防災組織の結成は力強い。平成20年10月現在、青森市の自主防災組織の結成率は20.5%（全国平均69.9%）と低い。ぜひ、みなさまのご協力をいただきたい」と共助の大切さを訴えています。

あなたの地域はいかがですか。災害時に女性の視点を生かすためにも、自主防災組織の結成に一役かってみませんか。

天災は忘れた頃にやってくる

青森市の歴史をひも解くと、記録的な災害にしばしば襲われていることに気づきます。今となっては記憶もあいまいになりつつあるその災害を伝えることが、未来への防災を考えることになるのではないのでしょうか。

地震

▼1968年(昭和43)5月16日 十勝沖地震 マグニチュード7.9 青森市震度5 市内40%に給水している横内浄水場の機能がマヒ。停電、断水、火災、当日の余震は震度5を最高に震度1以上が21回、市内の死者5人、重軽傷者54人



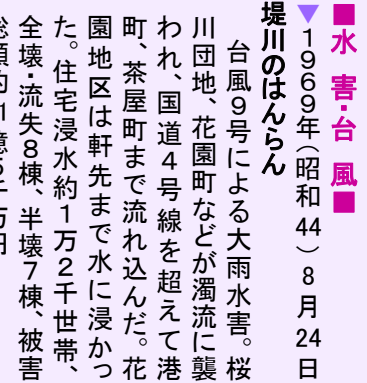
レンガ塀が倒れ死者もでた青森市港町(青森県史編さんグループ所蔵)

証言(昭和15年生まれ・女性)

そのとき、私はつわりで2階に寝ていた。ちよっとグラッと揺れた。ここにいると死んでしまおうと思って階段を降りようとしたが、途中で縦揺れがきて階段の柱につかまったが柱が抜けるようだった。水、電気が止まり、その夜は小さい子どもをおんぶしていても逃げられるようにして過ごした。余震はかなり長く続き、強い余震も何度あった。

水害台風

▼1969年(昭和44)8月24日 堤川のはららん 台風9号による大雨水害。桜川団地、花園町などが濁流に襲われ、国道4号線を超えて港町、茶屋町まで流れ込んだ。花園地区は軒先まで水に浸かった。住宅浸水約1万2千世帯、全壊・流失8棟、半壊7棟、被害総額約41億5千万円



花園町一帯の水害状況(よりよい明日のために!!=災害の記録=より)

速報

- ▼1991年(平成3)9月28日 台風19号 青森市で最大瞬間風速50.6m
- 【証言】(昭和32年生まれ・女性) 朝から猛烈な風が吹き、学校からは連絡網で休校との知らせ。飛来物で居間の出窓が割れ、落ちたガラス片は隣家の車を傷つけた。
- 雪害
- ▼1977年(昭和52)年2月8日 青森市で最深積雪195cm
- ▼1986年(昭和61)2月6日 青森市で最深積雪194cm
- ▼2005年(平成17)3月3日 青森市で最深積雪178cm